

Veritas NetBackup™ Appliance リリースノート

リリース 3.2

VERITAS™

Veritas NetBackup™ Appliance リリースノート

法的通知と登録商標

Copyright © 2019 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、ベリタスがオンプレミスサービスまたはホストサービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供

されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通(日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、ベリタスの **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/dpp.Appliances.html

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの **Service and Operations Readiness Tools (SORT)** は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup appliance 3.2 について	6
	NetBackup appliance 3.2 について	6
	NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知	7
第 2 章	NetBackup appliance 3.2 の機能、拡張機能、変更	8
	新機能、拡張機能、および変更点について	8
	NetBackup Appliance 3.2 の新機能、拡張機能、変更点	8
第 3 章	NetBackup Appliance ハードウェアの機能	14
	NetBackup 52xx のハードウェアの機能	14
	NetBackup 53xx のハードウェアの機能	16
	NetBackup 5330 アプライアンスのストレージシェルフについて	
	1 9	
	5U84 ストレージシェルフについて	20
	NetBackup Appliance ハードウェアの比較	21
	NetBackup Appliance のメモリ要件について	23
第 4 章	NetBackup Appliance の互換性	25
	NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて	25
第 5 章	操作上の注意事項	26
	NetBackup appliance 3.2 の運用上の注意について	26
	NetBackup Appliance 3.2 の新しい運用上の注意	27
	NetBackup Appliance の一般的な注意	29
	NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意	32
	インストールと構成の注意	33
	NetBackup サポートユーティリティについて	35
	NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)	35
	NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)	37
	その他の利用可能なサポートについて	37
	NetBackup appliance のログファイルについて	37

付録 A	リリース内容	40
	現在のリリースの内容について	40
	NetBackup Appliance 3.2 の一般的なリリース内容	41
	NetBackup Appliance のセキュリティリリース内容	41
付録 B	関連マニュアル	44
	NetBackup アプライアンスのマニュアルについて	44

NetBackup appliance 3.2 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup appliance 3.2 について](#)
- [NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知](#)

NetBackup appliance 3.2 について

『NetBackup Appliance リリースノート』は、NetBackup Appliance のリリース時点におけるバージョンの情報を概説したものです。古い情報と該当のリリースに当てはまらない情報はリリースノートから除外されています。古い情報は以前の NetBackup Appliance マニュアルで調べることができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。これらの問題の多くは、テクニカルサポートケースの形式で文書化されているお客様固有の問題に関するものです。このリリースに組み込まれた修正の多くは、個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用できます。EEB は、NetBackup Appliance ソフトウェアの以前のバージョンにおけるお客様固有の問題に対処するために作成されました。このリリースで作成され、導入されたエンジニアリングバイナリとバンドルは、Veritas SORT (Services and Operations Readiness Tools) やこのマニュアルの付録の「リリース内容」で確認できます。

NetBackup ソフトウェアバージョン 8.2 は NetBackup appliance 3.2 のリリースに付属しています。NetBackup 8.2 の新しい機能、拡張および修正については、ベリタスのサポート Web サイトの文書『NetBackup 8.2 リリースノート』に記載しています。

NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知

NetBackup Appliance の製品には、ベリタスが帰属を明示する必要があるサードパーティのソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。ソフトウェアに含まれる使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権の表記およびライセンスについては、次の Web サイトにある『NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』ドキュメントに記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

NetBackup appliance 3.2 の機能、拡張機能、変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [新機能、拡張機能、および変更点について](#)
- [NetBackup Appliance 3.2 の新機能、拡張機能、変更点](#)

新機能、拡張機能、および変更点について

このリリースでは新機能の導入に加えて、NetBackup Appliance の以前のリリースから機能が強化され、改善されています。このリリースの NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更点については、この章の以降のセクションを参照してください。

NetBackup Appliance 3.2 の新機能、拡張機能、変更点

次のリストに、NetBackup appliance 3.2 リリースの新機能、拡張機能、変更点を示します。

- **バージョン 3.2 のアップグレード前の要件**
NetBackup Appliance ソフトウェアバージョン 3.2 にアップグレードする前に、まず次の更新をインストールする必要があります。
 - **HDD ファームウェアと BIOS の更新**
アプライアンスモデル 5230 および 5330 では、バージョン 3.2 へのアップグレード前に HDD ファームウェアの更新が必要になる可能性があります。アプライアンスモデル 5230 および 5330 の両方で、バージョン 3.2 へのアップグレード前に BIOS の更新が必要です。アプライアンスモデル 5240 および 5340 は影響を受けず、バージョン 3.2 にアップグレードする前にこれらの更新を必要としません。

HDD ファームウェアと BIOS の両方の更新を含む Hotfix は、ソフトウェアバージョン 2.7.3 から 3.2 で利用できます。

- **MSDP 指紋の変換の Hotfix**

現在バージョン 2.7.3 または 3.0 を使用しているすべてのアプライアンスは、この Hotfix をインストールする必要があります。インストール後、指紋の変換が完了するまでに時間がかかることがあります。指紋の変換が完了するまで、アプライアンスをアップグレードすることはできません。

アップグレード前の要件の完全なチェックリストについては、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100046066

- **rpm プレフライトチェックと Appliance Upgrade Readiness Analyzer のアップグレードについて**

アプライアンスリリース 2.7.3 以降、アプライアンスのアップグレード rpm は、アプライアンスでアップグレードの準備ができているかどうかを判断するプレフライトチェック用のスクリプトを実行します。プレフライトチェックでは、複数のシステムパラメータを分析して、検出された結果とアップグレードを続行できるかどうかについての情報が提供されます。プレフライトチェックによりアップグレードの要件を満たさない問題が発覚した場合は、アップグレードできません。次のアップグレードを試行する前に、報告された問題すべてに対処する必要があります。

Appliance Upgrade Readiness Analyzer ツールには、アップグレード rpm と同じ基本チェック項目が含まれています。このツールには、アップグレード rpm に含まれていない追加のチェック項目が含まれていることもあります。アップグレード rpm のリリース後にベリタスが他のアップグレードの問題について認識した場合、アップグレード rpm と Analyzer ツールに違いが生じる可能性があります。Analyzer ツールは、アプライアンスリリース間にいつでも更新およびリリースされる場合があります。

アップグレード前のチェック結果を最も正確に取得するため、アップグレードを試みる前に、利用可能な最新バージョンの Analyzer ツールをダウンロードして実行することをお勧めします。Analyzer ツールをダウンロードするには、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100040055

Analyzer ツールを使用する場合の推奨されるベストプラクティスを次に示します。

- アップグレードのメンテナンス期間の前に Analyzer ツールを実行します。
これは、Analyzer ツールの結果で報告された必要な変更を実装するために十分な時間があることを確認することが目的です。
- アップグレードの直前に Analyzer ツールを再度実行します。
これにより、前回の分析以降に行われた環境内の変更がアップグレードに影響を与える可能性があるかどうかを確認します。
- このリリース以降、NetBackup Appliance は外部認証局 (ECA) の配備をサポートします。配備は、新規アプライアンスまたは出荷時設定のアプライアンスに対してメディアアサーバーの役割構成を選択したときに行われます。高可用性 (HA) 設定のアプ

イアンスの場合、計算 (初期) ノードの配備は初期構成中に行われ、HA の設定時に再び行われます。パートナーノードの場合、HA 設定にパートナーノードを追加するときに配備が行われます。詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

『NetBackup 52xx Appliance 初期構成ガイド』

『NetBackup 53xx Appliance 初期構成ガイド』

『NetBackup Appliance 高可用性リファレンスガイド』

メモ: NetBackup Appliance シェルメニューまたは Appliance Management Console (AMS) を使用したバージョン 3.2 へのアップグレードでは、ECA の配備はサポートされません。アップグレードが正常に完了したら NetBackup の ECA を有効にできます。詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。さらに、mongodb、tomcat、nginx などのアプライアンスインフラストラクチャサービスに ECA を構成できます。詳しくは、『NetBackup Appliance セキュリティガイド』を参照してください。

- バージョン 3.2 へのアップグレードでは、アプライアンスへの接続に使用されるキー交換アルゴリズムも更新されます。アップグレードの前に、アプライアンスに接続するための次のキー交換アルゴリズムを SSH クライアントがサポートしていることを確認します。
 - diffie-hellman-group-exchange-sha256
 - diffie-hellman-group18-sha512
 - diffie-hellman-group16-sha512
 - diffie-hellman-group14-sha256
 - ecdh-sha2-nistp256
 - 6ecdh-sha2-nistp384
 - ecdh-sha2-nistp521SSH クライアントが上記のアルゴリズムをサポートしていない場合、アプライアンスに接続しようとする、問題を通知するエラーメッセージが表示されます。
- このリリース以降、ユニバーサル共有の保護ポイントを作成して、ストレージライフサイクルポリシーのデータ管理機能を利用できます。保護ポイントは、ユニバーサル共有に存在するデータのポイントインタイムコピーです。保護ポイント内のデータはカタログ化されており、ストレージライフサイクルポリシーのデータ管理機能を使用して管理できます。ほとんどの場合、保護ポイントの作成は数秒で完了します。詳しくは、『NetBackup Appliance セキュリティガイド』を参照してください。
- このリリース以降、NetBackup Appliance は 2 要素認証 (2FA) をサポートします。以下、このリリースの 2FA サポートについて説明します。

- nbaseadmin ユーザーまたは NetBackup 管理者の役割を持つユーザーは、NetBackup Web UI の 2FA を構成できます。
- 2FA は、NetBackup™ Web UI を使用する Active Directory (AD) または Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) のドメインユーザーでのみサポートされます。現在、NetBackup Appliance シェルメニューまたは NetBackup Appliance Web コンソールを使用する場合、2FA 機能はサポートされません。
- 2FA を構成するには、アプライアンスで AD または LDAP がすでに構成されている場合でも、NetBackup のために別の AD または LDAP を構成する必要があります。詳しくは、『NetBackup Appliance セキュリティガイド』を参照してください。
- このリリース以降、VxUpdate を使用して、アプライアンスマスターサーバーからクライアントソフトウェアを更新し、EEB をインストールできます。VxUpdate パッケージの格納に使用される NetBackup パッケージリポジトリを管理するための新しいコマンドが NetBackup Appliance シェルメニュー (シェルメニュー) に追加されました。

メモ: VxUpdate は、クライアント上での既存のソフトウェアバージョンの更新のみをサポートします。クライアントへの新しいクライアントインストールの配備はサポートしていません。

詳しくは、『NetBackup Appliance アップグレードガイド』を参照してください。

- このリリース以降、アップグレードからのロールバックの進行中に、アプライアンスのシェルメニューにログインしようとする次のバナーが表示されます。

```
Rollback is in progress.....
```

```
Cannot interrupt or stop a rollback that is in progress.
```

```
Wait for rollback to complete.
```

- このリリース以降、アップグレードプロセスはすべてのストレージパーティションの状態をチェックします。いずれかのパーティションが正常にインポートまたはマウントされていない場合、アップグレードはロールバックを一時停止または開始します。
- このリリース以降、インスタントアクセス機能が NetBackup 5230 Appliance でサポートされます。この機能を使用すると、NetBackup のバックアップイメージからインスタントアクセス仮想マシンを作成できます。仮想マシンは瞬時に利用可能になるため、ほぼゼロのリカバリ時間目標を達成できます。NetBackup は仮想マシンのスナップショットをバックアップストレージデバイスに直接マウントするため、ESXi ホストまたはクラスターはスナップショットを通常の仮想マシンとして扱えます。この機能の使用方法について詳しくは、『NetBackup Web UI VMware 管理者ガイド』を参照してください。

- このリリース以降、インスタントアクセス機能を使用した VMware サポートに対して次の改善が行われました。
 - 複数ファイルと複数フォルダのダウンロードおよび復元操作の追加
 - いくつかのエラーコードの強化
 - VM の vMotion サポートの追加
 - LDM サポートの追加
 - Windows ACL の保持機能の追加
 - SFR 速度の向上
 - NBU ジョブの状態を表示する機能の追加
 - 各ファイルの詳細表示によるファイルの閲覧エクスペリエンスを強化
- このリリース以降、NetBackup Appliance はアップグレード時に詳細な遠隔測定情報を収集します。サービスの状態、ストレージの状態、領域の使用状況、RAID の状態、IPMI の状態に関する情報は、アップグレードのさまざまな段階でイベントの形式で収集されます。コールホームが有効になっている場合、収集したログとイベントは AutoSupport サーバーに送信されます。コールホームが無効になっている場合、ログとイベントはアプライアンスに保存されます。
- このリリース以降、NetBackup マスターサーバーおよびメディアサーバーアプライアンスで宛先ネットワークアドレス変換 (DNAT) がサポートされます。この機能は、ネットワークアドレス変換 (NAT) クライアントとの通信をサポートします。アプライアンスの初期設定が完了した後、アプライアンスのシェルメニューから DNAT を有効にできます。詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。
- このリリース以降、Appliance Management Server (AMS) バージョン 1.3 では、次の機能がサポートされます。
 - Emergency Engineering Binary (EEB) のアンインストール
AMS から EEB を削除またはアンインストールします。
 - ネットワークスロットル
AMS にパッケージをダウンロードするための帯域幅を制限します。
 - NetBackup Virtual Appliance のログインページ
Virtual Appliance ユーザー向けに新しいログインページが提供されます。
これらの機能について詳しくは、『Veritas Appliance Management ガイド』を参照してください。
- このリリース以降、NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance の初期設定手順が変更されました。クラウドストレージプロバイダの構成は、NetBackup 管理コンソールのクラウドストレージ構成ウィザードを使用して行う必要があります。この構成が完了したら、重複排除 (MSDP) プールカタログのバックアップポリシーを手動で作成する必

があります。詳しくは、『NetBackup 52xx Appliance 初期構成ガイド』を参照してください。

- このリリース以降、NetBackup のマルチスレッドエージェントサービス (mtstrmd) がすべてのアプライアンスの HA 環境で実行されるようになりました。このサービスにより、HA 環境での MSDP のパフォーマンスが向上します。
- このリリース以降、NetBackup の `spoold` プロセスの変更によって、HA セットアップまたはスイッチオーバー操作中に発生する可能性のあるタイムアウトの問題が解消されます。
- このリリース以降、IPMI プロトコルのセキュリティ関連の問題を軽減するため、インテリジェントプラットフォーム管理インターフェース (IPMI) のポート (623) はデフォルトで無効になっています。IPMI プロトコルに関連するセキュリティ関連の問題 (CVE-2013-4786) について詳しくは、以下を参照してください。

<https://nvd.nist.gov/vuln/detail/CVE-2013-4786>

NetBackup Appliance ハードウェアの機能

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 52xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup 53xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup Appliance ハードウェアの比較](#)

NetBackup 52xx のハードウェアの機能

このリリースは、アプライアンスの 52xx ハードウェアアーキテクチャをサポートします。これらのアーキテクチャは、以下のいずれかのモードで構成できます。

メモ: アプライアンスモデル 5220 以前はサポートされていません。

- アプライアンスマスターサーバー
- アプライアンスマスターサーバーおよびメディアサーバー
- アプライアンスメディアサーバーのみ

5240 は 52xx の最新ハードウェアアーキテクチャです。NetBackup 5240 Appliance は、アプライアンスソフトウェアバージョン 2.7.3 以降をサポートします。

アプライアンスソフトウェアバージョン 3.1 以降、NetBackup 5240 Appliance では 2U12 ストレージシェルフを 6 つまでサポートします。NetBackup Appliance ソフトウェアのバージョン 2.7.3 以前では、I/O 構成 H、J、K、L はサポートされていません。

NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、次のサイトに掲示されている「NetBackup ハードウェア互換性リスト」を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100036440>

メモ: アプライアンスソフトウェアバージョン 3.2 以降、現在サポートされていない NetBackup 5220 は「52xx」に含まれません。

52xx Appliance のすべてのアーキテクチャは、特に明記されていない限り以下の機能をサポートします。

- 5230 - デュアルプロセッサ、6 つのコアプロセッサ、Intel ベースのシステム
- 5240 - デュアルプロセッサ、8 つのコアプロセッサ、Intel ベースのシステム
- それぞれに、いくつかのホットスワップ外部ドライブがある
- 外部テープドライブをサポートするファイバーチャネル接続。
- 基本構成は、ギガビットイーサネットネットワークをサポートする
- 高性能ハードウェア RAID コントローラ
- それぞれが、コードベースとして NetBackup を使用する
- RHEL オペレーティングシステム (ベリタス提供)。Veritas
- それぞれが、NetBackup Appliance ソフトウェアの最新版を実行できる
- それぞれが、メディアサーバー重複排除ルール (MSDP) ストレージをサポートする (メディアサーバーとして構成されている場合)。MSDP は 52xx Appliance の利用可能な最大ストレージ容量を上限に提供する

NetBackup 5230 Appliance は、Intel X520 SR2 10 Gb イーサネットカードをシステムの標準またはオプションとして使用します。

NetBackup 5240 Appliance は、Intel X710 10Gb イーサネットカードをシステムの標準またはオプションとして使用します。

NetBackup 5240 Appliance には、構成に応じて 4 TB から 27 TB までのフォーマット済み総ストレージ容量を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 5230 Appliance には、4 TB から 14 TB までのフォーマット済み総ストレージ容量を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 52xx Appliance には、追加ストレージとして Veritas Storage Shelf を接続できます。

「表 3-1」に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5240 Appliance で利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。NetBackup 5240 Appliance のリリース 3.1 では、6 台の 2U12 ストレージシェルフをサポートするようになりました。

表 3-1 NetBackup 5240 Appliance バージョン 3.2 で利用可能なストレージ容量オプション

アプライアンスのみ	ストレージシェルフ	アプライアンスと 1 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 2 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 3 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 4 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 5 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 6 台のストレージシェルフ
4 TB	49 TB	53 TB	102 TB	151 TB	200 TB	249 TB	298 TB
14 TB	49 TB	63 TB	112 TB	161 TB	210 TB	259 TB	308 TB
27 TB	49 TB	76 TB	125 TB	174 TB	174 TB	272 TB	321 TB

ストレージ容量について詳しくは、『NetBackup 5240 Appliance 製品説明』を参照してください。

「表 3-2」に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5230 Appliance で利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 3-2 NetBackup 5230 Appliance バージョン 3.2 で利用可能なストレージ容量オプション

アプライアンスのディスクドライブ	アプライアンス	ストレージシェルフディスクドライブ	ストレージシェルフ	アプライアンスと 1 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 2 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 3 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 4 台のストレージシェルフ
1 TB	4.55 TB	2 TB	24 TB	28.55 TB	52.55 TB	*	*
1 TB	4.55 TB	3 TB	36 TB	40.55 TB	76.55 TB	112.55 TB	148.55 TB
3 TB	13.65 TB	2 TB	24 TB	37.65 TB	61.65 TB	*	*
3 TB	13.65 TB	3 TB	36 TB	49.65 TB	85.65 TB	121.65 TB	157.65 TB

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

NetBackup Appliance のハードウェアアーキテクチャについて詳しくは、『NetBackup Appliance と Veritas Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 53xx のハードウェアの機能

このリリースでは、NetBackup 5330 Appliance と 5340 Appliance をサポートします。

53xx アプライアンスは、メディアサーバーとしてのみ構成できます。

NetBackup 53xx Appliance には、以下の機能が搭載されています。

- メモリ

NetBackup 5330 Appliance には、800 MHz で動作する 384 GB の RAM が搭載されています。

NetBackup 5340 Appliance には、2666 MHz で動作する 768 GB の RAM が搭載されています。
- 速度

5330 には、通常 2.8 GHz、最大 3.1 GHz の 10 コアのプロセッサが搭載されています。

5340 には、通常 2.0 GHz、最大 3.7 GHz の 20 コアのプロセッサが搭載されています。
- 動作電圧

5330 は 1.35 V で動作します。

5340 は 1.2 V で動作します。
- 耐性の高いストレージアーキテクチャ

NetBackup 53xx Appliance の冗長コンポーネントによって、アプライアンスはハードウェアコンポーネントでエラーが発生した場合でも生産性を維持できます。この機能によって、欠陥のある部品を交換するまで、ハードウェアの障害が操作に及ぼす影響を最小限に抑えることができます。
- ホットスワップ対応のコンポーネント

53xx の外部 RAID コントローラはホットスワップ対応のため、操作を中断することなく欠陥のあるコントローラを交換できます。
- 複数の冗長データパス

NetBackup 53xx は、すべての重要なストレージで冗長データパスを備えています。これによって、複数のコンポーネントエラーが発生した場合でも動作することができます。

NetBackup 5330 ハードウェアには、アプライアンスとプライマリストレージシェルフが備わっています。アプライアンスはストレージを備えていませんが、プライマリストレージシェルフと最大 5 台の拡張ストレージシェルフの空き領域をバックアップに使うことができます。プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは 3 TB または 6 TB のディスクドライブをサポートしますが、シェルフ内のすべてのドライブを同じ容量にする必要があります。次の表に、NetBackup 5330 アプライアンスシステムで利用可能な、フォーマット済みストレージの容量を示します。

表 3-3 NetBackup 5330 Appliance ソフトウェアバージョン 3.1.2 ストレージオプション

ストレージオプション	プライマリストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	使用可能なストレージ容量
A	114 TB	-	-	-	-	-	114 TB
B	114 TB	114 TB	-	-	-	-	229 TB
C	114 TB	114 TB	114 TB	-	-	-	343 TB
D	114 TB	229 TB	-	-	-	-	343 TB
E	114 TB	229 TB	229 TB	229 TB	-	-	801 TB
F	114 TB	114 TB	229 TB	229 TB	229 TB	-	915 TB
G	114 TB	114 TB	114 TB	229 TB	229 TB	-	800 TB
H	114 TB	114 TB	229 TB	-	-	-	458 TB
I	114 TB	229 TB	229 TB	-	-	-	572 TB
J	229 TB	-	-	-	-	-	229 TB
K	229 TB	229 TB	-	-	-	-	458 TB
L	229 TB	229 TB	229 TB	-	-	-	687 TB
M	229 TB	229 TB	229 TB	229 TB	-	-	916 TB
N	229 TB	229 TB	229 TB	229 TB	229 TB	229 TB	1374TB*

*システムで利用可能な合計ストレージ容量として 1,374 TB に対応している場合でも、MSDP データベースの利用可能な最大ストレージ容量は 960 TiB (1,056 TB) です。

NetBackup 5340 Appliance のストレージ容量

NetBackup 5340 Appliance 計算ノードには、データを格納するための内部ディスク容量はありません。代わりに、NetBackup 5340 Appliance は、必須の Veritas 5U84 プライマリストレージシェルフをメインのデータストレージデバイスとして使用します。5U84 プライマリストレージシェルフは NetBackup 5340 Appliance 計算ノードに接続し、RAID 6 ドライブセットを使用して格納データを保護します。

追加のデータストレージ領域が必要な場合は、既存の 5U84 プライマリストレージシェルフに最大 3 台のオプションの Veritas 5U84 拡張ストレージシェルフを接続できます。5U84 拡張ストレージシェルフは、SAS3 データケーブルを使用して 5U84 プライマリストレージシェルフに接続します。シェルフを接続すると、5U84 拡張ストレージシェルフの

ディスクドライブの格納データが 5U84 プライマリストレージシェルフが制御する RAID 6 セットを使用して保護されます。

表 3-4 NetBackup 5340 Appliance ソフトウェアバージョン 3.1.2 のディスクドライブ容量別のストレージオプション

利用可能なストレージ容量 (4 TB ドライブ)	利用可能なストレージ容量 (8 TB ドライブ)
120 TiB (132 TB)	240 TiB (264 TB)
240 TiB (264 TB)	480 TiB (528 TB)
360 TiB (396 TB)	720 TiB (792 TB)
480 TiB (528 TB)	960 TiB* (1,056 TB)
600 TiB (660 TB)	1200 TiB* (1,320 TB)
720 TiB (792 TB)	1440 TiB* (1,583 TB)
840 TiB (924 TB)	1680 TiB* (1,847 TB)
960 TiB* (1,056 TB)	1920 TiB* (2,111 TB)

* NetBackup 5340 Appliance ソフトウェアバージョン 3.1.2 は、利用可能な MSDP ストレージ容量として最大で 960 TiB (1,056 TB) までサポートします。

詳しくは、『Veritas 5340 Appliance の製品説明』を参照してください。

NetBackup Appliance のハードウェアアーキテクチャについては、『NetBackup Appliance と Veritas Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 5330 アプライアンスのストレージシェルフについて

NetBackup 5330 Appliance は内蔵ストレージを装備していないため、以下の外部ストレージシェルフを使用する必要があります。

- プライマリストレージシェルフ

このストレージシェルフには RAID コントローラが搭載されており、5330 アプライアンスをインストールする場合に必要です。このユニットは、ファイバーチャネル (FC) ケーブルでアプライアンスに直接接続します。ANetBackup 5330 システムには、1 台のプライマリストレージシェルフが必要です。

- 拡張ストレージシェルフ
このストレージシェルフはオプションで、プライマリストレージシェルフのみを搭載した最小構成システムのディスク容量を増やすために使用します。このシェルフは、SAS ケーブルで直接プライマリストレージシェルフに接続します。NetBackup 5330 システムでは、最大 5 台の拡張ストレージシェルフをサポートします。

メモ: プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは、NetBackup 52xx アプライアンスと互換性がありません。Veritas Storage Shelf は NetBackup 5330 または関連付けられたストレージシェルフのいずれとも互換性がありません。

NetBackup Appliance Web コンソールから NetBackup 5330 の初期構成を開始すると、[ストレージの概要 (Storage Overview)] ページが表示されます。このページによって、システムのハードウェア構成が示され、接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題が特定されます。初期構成に進む前に、特定されたすべての問題を修正することをお勧めします。

NetBackup Appliance シェルメニューから初期構成を実行する場合、Test hardware コマンドを手動で実行して接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題を特定できます。

詳しくは『NetBackup Appliance Initial Configuration Guide』を参照してください。

5U84 ストレージシェルフについて

NetBackup 5340 と NetBackup 5340 高可用性 (HA) 計算ノードには、いずれの内部ストレージも装備されていません。どちらの構成でも、以下に示すように外部ストレージシェルフを使用します。

- 5U84 プライマリストレージシェルフ (必須)
このシェルフは、計算ノードとオプションの拡張シェルフに直接接続します。
- 5U84 拡張ストレージシェルフ (オプション。最大 3 台のシェルフ)
このシェルフはプライマリシェルフに直接接続します。

5U84 ストレージシェルフの機能は、以下のとおりです。

- ストレージシェルフは、C19 と C20 コネクタを使用して AC 220 V (20 A) で稼働する必要があります。
- ディスクドライブが設置されていないストレージシェルフの重量は、最大 61.65 kg (135.72 lbs) です。ディスクドライブは、ストレージシェルフとは別途出荷されます。シェルフをラックに取り付けてからディスクを取り付けます。

- レールの前面支柱の内側から背面支柱の内側までの長さは、713 mm から 884 mm (28 インチから 34.8 インチ) です。ラックにこの長さが収まることを確認します。その他に、電源ストリップ、電源コード、その他のケーブルを収めるスペースも確保してください。
- 必要に応じて、半分の容量のストレージシェルフを利用できます。利用可能なストレージ容量について詳しくは、『NetBackup 5340 Appliance 製品説明ガイド』を参照してください。

[NetBackup Appliance のマニュアル](#)

NetBackup Appliance ハードウェアの比較

表 3-5 では、NetBackup 53xx Appliance と NetBackup 52xx Appliance の違いの概要を示します。

表 3-5 NetBackup 5340 Appliance、NetBackup 5330 Appliance、NetBackup 5240 Appliance、NetBackup 5230 Appliance の比較

パラメータ	NetBackup 5340	NetBackup 5330	NetBackup 5240	NetBackup 5230
役割	メディアサーバーのみ	メディアサーバーのみ	マスターサーバーまたはメディアサーバー	マスターサーバーまたはメディアサーバー
コア	40	20	16	12
キャッシュ	55 MB	50 MB	40 MB (20 MB/CPU)	30MB
RAID キャッシュ	32 GB	24 GB	1 GB	1 GB
CPU 速度	2.0 GHz	2.8 GHz	2.4 GHz	2.0 GHz
ターボ速度	3.7 GHz	3.1 GHz	3.2 GHz	2.5 GHz
QPI 速度	10.4 GT/秒	8 GT/秒	8 GT/秒	7.2 GT/秒

パラメータ	NetBackup 5340	NetBackup 5330	NetBackup 5240	NetBackup 5230
システムメモリ**	768 GB	384 GB	64 GB メモ: 最初のストレージシェルフを購入すると、ストレージシェルフに同梱されるストレージ拡張には、追加の 64 GB メモリが含まれていません。 最初のストレージシェルフとメモリを追加した後、追加の 64 GB メモリキットを購入して、アプライアンスのメモリを最大 192 GB まで増やすことができます。 メモ: 既存のメモリ構成 (32 GB x 8) の代わりとなる 256 GB キットも用意されています。	128 GB (拡張ストレージ付き)
メモリ構成 ** (DIMM、特に明記されている場合を除く)	標準 (RDIMM): 32 GB x 24 (768 GB) オプション: (RDIMM) 64 GB x 24 (1536 GB)	標準: 16 GB x 24 オプション: 32 GB x 24 (768 GB)	標準: 8 GB x 8 (64 GB) オプション: 8 GB x 16 (128 GB) 8 GB x 24 (192 GB) 32 GB x 8 (256 GB)	標準: 8 GB x 8 (64 GB) オプション: 8 GB x 16 (128 GB) 8 GB x 24 (192 GB)
データ保持	スーパーキャパシタと 2 つの RAID コントローラそれぞれのフラッシュメモリ	RAID コントローラごとの 1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニットから NVRAM (システムにつき 2 個)	1 つの内部 RAID コントローラ用フラッシュメモリカード搭載 MFBU 最初のストレージシェルフ購入時に、1 つの外部 RAID コントローラ用フラッシュメモリカード搭載 MFBU	フラッシュとスーパーキャパシタを搭載する 1 つのメンテナンスフリーバックアップユニット (MFBU) 2 番目の MFBU は拡張ストレージとともに追加されます
PCI アドインカードスロット	8	6	8	6
オンボード 10 GB イーサネットポート	0 (4 つのオンボード 1 GbE ポート)	2	2	2

パラメータ	NetBackup 5340	NetBackup 5330	NetBackup 5240	NetBackup 5230
PCI アセンブリの 10 Gb イーサネットカード	最大 5 枚のカード (10 個のポート)	最大 4 枚のカード (8 個のポート) *	最大 3 枚のカード (6 個のポート)	最大 1 枚のカード (2 個のポート)
PCI アセンブリに追加の 1 Gb イーサネットカード	不要	不要	最大 1 枚のカード (4 個のポート)	不要
PCI アセンブリの SAS RAID カード	不要	不要	可 (最初のストレージシェルフの購入時に付属)	可 (拡張ストレージに付属)
冗長外部ストレージベースの RAID コントローラ x 2	必要	必要	不要	不要
外部ストレージ	1 つの必須プライマリストレージシェルフと最大 3 つのオプションの拡張ストレージシェルフ	1 つの必須プライマリストレージシェルフと最大 5 つのオプションの拡張ストレージシェルフ	最大 4 つのストレージシェルフ	最大 4 つの Veritas ストレージシェルフ
外部ストレージを含む最大ストレージ容量**	1920 TB	1364 TB	201 TB	157 TB
最大の外部ストレージでの標準の消費電力	5800 W (3.0 W/TB)	2442 W (1.79 W/TB)	1140 W (5.6 W/TB)	1500 W (9.5 W/TB)

* NetBackup 5330 Appliance には全構成の標準コンポーネントとして常に 2 つの 10Gb イーサネットポートが含まれます。

** 外部ストレージを使用したメモリ構成と最大ストレージ容量に関する重要な情報については、次のトピックを参照してください: p.23 の「[NetBackup Appliance のメモリ要件について](#)」を参照してください。

NetBackup Appliance のメモリ要件について

NetBackup Appliance ソフトウェアバージョン 3.1 以降、MD5 から指紋認証プロセスの SHA-256 に移行することで MSDP のセキュリティ対策が改善されました。この変更により、大規模な重複排除プール構成でのメモリ消費の需要が増加しました。

次に、アプライアンスのメモリ占有域の要件に関するガイダンスを示します。MSDP で最適なパフォーマンスを実現するためには、これに従う必要があります。

- NetBackup 5230

3 ストレージおよび 4 ストレージのすべてのシェルフ構成については、144 TB 以上の MSDP プールで構成する場合、メモリ容量を 128 GB から 192 GB にアップグレードすることを強くお勧めします。

- **NetBackup 5240**

3 ストレージおよび 4 ストレージのすべてのシェルフ構成については、150 TB 以上の MSDP プールで構成する場合、メモリ容量を 128 GB から 192 GB 以上にアップグレードすることを強くお勧めします。

5 ストレージおよび 6 ストレージのすべてのシェルフ構成については、250 TB 以上の MSDP プールで構成する場合、メモリ容量を 256 GB 以上にアップグレードすることを強くお勧めします。

256 GB のメモリアップグレードキットを購入可能です。これにより、アプライアンスに既存のすべての DIMM モジュールが置換されます。詳しくは、ベリタスアカウント担当者にお問い合わせください。

- **NetBackup 5330**

458 TB 以上の MSDP プールがあるすべてのストレージ構成では、メモリ容量を 768 GB にアップグレードすることを強くお勧めします。

- **NetBackup 5340**

960 TB 以上の MSDP プールがあるすべてのストレージ構成では、メモリ容量を 1536 GB にアップグレードすることを強くお勧めします。

次を含む他の要因も、メモリ使用量の増加につながる可能性があります。

- 同時実行中のジョブ/ストリーム数の多さ
- 大規模な MSDP 指紋キャッシュ構成
- マスターサーバーが担うスケジューリング設定

NetBackup Appliance の互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて](#)

NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて

ソフトウェアの更新リリースが利用可能なときは、インストールして最新の製品機能と修正が確実に含まれるようにすることを推奨します。Veritas

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするとき、更新リリースはオペレーティングシステム、NetBackup、すべてのアプライアンスインターフェースの更新バージョンをインストールすることがあります。すべてのサービスはアップグレードが始まると自動的に終了し、それからすべての更新が適用された後で自動的に再起動されます。

メモ: 現在、アプライアンスで 2.7.2 より前のバージョンを使用している場合、バージョン 3.2 にアップグレードするには 2 回アップグレードする必要があります。バージョン 2.7.3 にアップグレードしてから、バージョン 3.2 にアップグレードすることを推奨します。

Veritas システム停止時間を最小化するため、アプライアンスのアップグレードは前もって計画することを推奨します。アップグレードについては、『NetBackup Appliance アップグレードガイド』を参照してください。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup appliance 3.2 の運用上の注意について](#)
- [NetBackup Appliance 3.2 の新しい運用上の注意](#)
- [NetBackup Appliance の一般的な注意](#)
- [NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意](#)
- [インストールと構成の注意](#)
- [NetBackup サポートユーティリティについて](#)
- [NetBackup appliance のログファイルについて](#)

NetBackup appliance 3.2 の運用上の注意について

この章では、NetBackup Appliance 3.2 の運用上、付属マニュアルの他の箇所では文書化されない可能性のある重要な点について説明します。この文書はベリタスのサポート Web サイトで公開されたもので、NetBackup appliance 3.2 の GA リリース後更新される場合があります。そのため、次のリンクを参照して、最新のリリース情報を確認することをお勧めします。

NetBackup Appliance 3.2 には NetBackup 8.2 ソフトウェアをインストールするため、NetBackup 8.2 に適用される操作上の注意は、NetBackup appliance 3.2 にも当てはまります。NetBackup の操作上の注意について詳しくは、Veritas サポート Web サイトで『NetBackup 8.2 リリースノート』を参照してください。

NetBackup Appliance 3.2 の新しい運用上の注意

このトピックでは、このリリースの既知の問題について説明します。ここに記載されている問題の一部は、以前のリリースの公開後に発見されたため以前のリリースにもあてはまる可能性があります。

このドキュメントの付録「リリース内容」で、このリリースで解決された問題を参照してください。

バージョン 3.2 の既知の問題:

- **NetBackup Appliance シェルメニューまたは Appliance Management Console (AMS) を使用したバージョン 3.2 へのアップグレードでは、ECA の配備はサポートされません。**アップグレードが正常に完了したら NetBackup の ECA を有効にできます。詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。さらに、mongodb、tomcat、nginx などのアプライアンスインフラストラクチャサービスに ECA を構成できます。詳しくは、『NetBackup Appliance セキュリティガイド』を参照してください。
- **バージョン 2.7.3 および 3.0 からバージョン 3.2 へのアップグレードでは、tune.pl ファイルに記載されたすべてのカスタマイズされたチューニング値がバージョン 3.2 のデフォルト設定に変更されます。**これらのアップグレードが完了したら、影響を受けるカスタマイズされたチューニング値を手動で再適用する必要があります。
- **高可用性 (HA) 配備**
お客様が新しい NetBackup Appliance HA インストールを配備できるように、ベリタスでは関連する問題に対処するものを含む、さまざまな文書へのリンク付きのチェックリストを作成しました。詳しくは、次の記事を参照してください。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.100043658.html
- **計算ノードで HA 設定を構成する際にプロセスが失敗すると、エラーメッセージが表示されるまでに最大 1 時間かかることがあります。**
- **HA 設定でノードをアップグレードするには、計算ノードとパートナーノードの両方に MSDP 構成が必要です。**MSDP が構成されていない場合、アプライアンスの HA ノードのアップグレードはサポートされません。
- **初期構成時に MSDP が構成されていない 2 つのアプライアンスノードを使用して HA 設定を構成する場合、次のコマンドシーケンスを使用して、計算ノードから MSDP 構成を完了する必要があります。**
 - `Manage > Storage > Resize MSDP Catalog`
 - `Manage > Storage > Resize MSDP`
 - `Manage > High Availability > Switchover <partner node>`
最後のコマンドでは HA 設定が正しく機能していることを確認します

メモ: ベストプラクティスは、アプライアンスの初期構成時に常に **MSDP** を構成することです。

- バージョン **3.2** にアップグレードされたアプライアンスの計算ノードで **HA** 設定を作成し、新しい **3.2** バージョンのアプライアンスであるパートナーノードを追加しようとする、プロセスが失敗し、次のメッセージが表示されることがあります。

- [Error] V-409-955-2025:

```
The User ID/Group ID (uid/gid) for the mongod user on the partner
node is different from
```

```
the uid/gid for the mongod user on the active node. Refer to
Veritas article 100046013.
```

この問題を解決するには、ベリタスのサポートにお問い合わせください。

- パートナーノードを追加してアプライアンスの **HA** 設定を完了する前に、まずすべての **NetBackup** プロセスがマスターサーバーと両方の **HA** ノードで実行されていることを確認する必要があります。

マスターサーバーまたはノードでプロセスが実行されていない場合、パートナーノードを追加できません。このエラーを防ぐには、すべての **NetBackup** プロセスを停止してから、再起動する必要があります。詳しくは、『**NetBackup 53xx Appliance 初期構成ガイド**』のトピック「**NetBackup 53xx 高可用性構成へのパートナーノードの追加**」を参照してください。

- ソフトウェアバージョン **3.2** へのアップグレード後、**NetBackup CLI** ユーザーがアプライアンスにログインできないことがあります。この問題を解決するには、管理者としてアプライアンスにログインし、次のコマンドを実行します。

```
Support->Service Restart nbapp-nbcli
```

- **Appliance Management Server (AMS)** のアップグレード
ソフトウェアバージョン **3.2** へのアップグレードでは、**AMS** が **AMS** バージョン **1.3** に構成されているアプライアンスもアップグレードされます。アップグレードが完了し、アップグレードされたアプライアンスの **AMS** コンソールから他のサーバーをアップグレードしようするとプレフライトチェックが失敗します。この問題を回避するには、次のようにアップグレードしたアプライアンスで **AMS** を構成解除してから再構成します。

- **AMS** が構成されているアップグレードされたアプライアンスで、**NetBackup Appliance** シェルメニューにログインします。

- 次のコマンドを入力して、**AMS** を構成解除します。

```
Appliance > Management Server Unconfigure
```

- 次のコマンドを入力して、**AMS** を再構成します。

```
Appliance > Management Server Configure
```

- ソフトウェアバージョン 2.7.3 または 3.0 を搭載し、Appliance Management Agent (AMA)として構成されているアプライアンスメディアサーバーをアップグレードする場合、NetBackup セキュリティレベルが[非常に高い (Very High)]に設定されている場合、プレフライトチェックが失敗し、アップグレードが妨げられる可能性があります。次のエラーメッセージが表示されます。
 Error: Preflight check failed, could not get the path for NB_certcmdTool
 この問題を回避するには、IPMI コンソールから NetBackup Appliance シェルメニューにログインして、これらのアプライアンスをアップグレードします。
- NetBackup 自動イメージレプリケーション機能を使用するアプライアンスの場合、バージョン 3.2 にアップグレードすると、NetBackup バージョン 8.2 の問題が原因でこれらのレプリケーションジョブが失敗する可能性があります。
 この問題を解決するには、ベリタスのサポートに連絡し、担当者に次の EEB を提供するように依頼してください。
 NBAPP_EEB_ET3091133_3.2.0.0-4/x86_64.rpm
- QLogic QLE8442 カードを搭載していない NetBackup Appliance 5240 モデルで Support > Collect Inventory コマンドを実行しようすると失敗します。I/O 構成 H のモデル 5240 は ISCSI 対応ではないため除外されます。コマンド出力結果とともに対応するエラーメッセージが表示されますが、SFP アラートを処理する EthTool プラグインを除き、基盤となるハードウェア監視は引き続き機能します。

NetBackup Appliance の一般的な注意

次のリストに、NetBackup Appliance の一般的な使用に関する注意事項と既知の問題を示します。

- 52xx ストレージシェルフが NetBackup Appliance Web コンソールまたは NetBackup Appliance シェルメニューに表示される順序は、それぞれの環境の実際の順序およびレイアウトと異なることがあります。ストレージシェルフの順序は、左ペインの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]タブに、[NetBackup StorageShelf 1]、[NetBackup StorageShelf2] のように表示されます。同様に、ストレージシェルフの順序は、Monitor > Hardware > ShowHealth コマンドを実行すると NetBackup Appliance シェルメニューに表示されます。
- メインボードの RAID コントローラを 52xx Appliance から取りはずした場合に [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]、[アダプタ (Adapter)]タブの順にクリックするか、Monitor> Hardware ShowHealth Appliance Adapter コマンドを実行すると、NetBackup Appliance Web コンソールまたは NetBackup Appliance シェルメニューに古いデータが表示されることがあります。
- 5240 アプライアンスの RAID 1 ボリュームにディスクが見つからず、Monitor > Hardware ShowHealth Appliance RAID コマンドを実行する場合、見つからないディスクの場所が誤ってスロット 0 と表示されます。

5240 アプライアンスで[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] > [RAID] に移動するときに **NetBackup Appliance Web** コンソールで同じ動作が観察されます。この問題は、5240 アプライアンスに当てはまり、アプライアンスの RAID 1 ボリューム上のディスクが見つからない場合に観察されます。

- **Veritas Storage Shelf** を **NetBackup 52xx Appliance** に接続した場合、ストレージシェルフをオンにすると、ストレージシェルフの各ストレージディスクごとに **AutoSupport** 警告 (UMI コード V-475-100-1004) が生成されます。次のメッセージが表示されます。

「外部構成をインポートするか、ディスクを消去することができます。」

これらの警告は無視しても問題ありません。

初期構成中にストレージシェルフを接続した場合、初期構成が完了すると警告は消えます。

初期構成後にストレージシェルフを接続した場合、インストール手順の中でストレージスキャンを実行すると警告は消えます。**NetBackup Appliance Web** コンソールと **NetBackup Appliance** シェルメニューは、インストールの完了後、約 5 分間、ストレージシェルフの誤ったデータを表示することがあります。

ストレージシェルフのインストールについては、『**NetBackup Appliance** ハードウェア取り付けガイド』を参照してください。

- ログインバナーの見出しましたはログインバナーのメッセージの 1 行に ERROR: というテキストのみが含まれる場合は、アプライアンスのセルフテストが失敗します。

- **NetBackup 5330 Appliance** では、LUN オーナーシップを 1 つのコントローラから別のコントローラにフェールオーバーするときに優先バリエーションが起きる場合があります。1 つのコントローラが他のコントローラをリセットして、それが原因で優先バリエーションが起きる場合があります。このエラーが起きると、アプライアンスハードウェア監視の [ストレージステータス (Storage Status)] に [最適でない (Not Optimal)] と表示されます。このエラーは解消されるまでに数週間続く場合があります。

このエラーが解消されない場合は、すべてのパスがエラーになり、影響を受けるコントローラがオフラインになり、その結果、冗長性とパフォーマンスが低下します。この問題が起きた場合は、ベリタスのサポートに連絡して、担当者に **TECH225558** を参照するように伝えてください。Veritas

- **Windows 7/8.1** クライアントはアプライアンスの CIFS 共有に自動的にアクセスできません。この問題を回避するには、クライアントの Windows コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

`net use /user:admin ¥¥appliance-name *.appliance-name` はアプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

メッセージが表示されたら、プロンプトでアプライアンス管理者のパスワードを入力します。

このコマンドを実行すると、クライアントは CIFS 共有にアクセスできます。

- **NetBackup Appliance** のこのリリースでは、アプライアンスをバックアップホストまたはリカバリホストとして使った場合は、レプリケーションディレクタ (RD) リストアで動的マルチパス (DMP) がサポートされません。
- 出荷時の設定へのリセット中、次のメッセージが表示される場合の手順を示します。
 RESET STORAGE CONFIGURATION and BACKUP DATA [Optional]
 [いいえ (no)]を選択すると、ストレージ関連の構成は保持されます。出荷時の設定へのリセット後、最初の構成で **Advanced Disk** と **MSDP** のサイズを 0 に設定していないことを確認します。指定した場合、役割の構成は失敗します。

メモ: **AdvancedDisk** および **MSDP** パーティションのサイズが出荷時の設定へのリセット前に 0 に設定されていた場合、最初の構成の実行時 0 のままにできます。

- バージョン **2.6.1** より、出荷時の設定にリセットする際にネットワークとストレージ構成設定の維持を選択すると、「ボリュームをロールバックできません (**Cannot rollback volume**)」というエラーメッセージが表示されます。このメッセージは、出荷時の設定へのリセットの処理中にアプライアンスのネットワーク構成を保存できなかったことを示します。出荷時の設定へのリセット正常に完了しましたが、ネットワークパラメータを再構成する必要があります。
 詳しくは、ベリタスのサポート Web サイトで次のテクニカルノートを参照してください。
www.veritas.com/docs/100032270
- ソフトウェアバージョン **3.1.2** 以降にアップグレードする場合に、アプライアンスで **SAN** クライアントのバックアップを引き続きサポートするには、**1**ゾーンに含めるイニシエータとターゲットを **1** つだけにしてください。各クライアントホストも、**1** つの **FT** メディアサーバーのみを使用してゾーン化する必要があります。詳しくは、『**NetBackup Appliance** ファイバーチャネルガイド』を参照してください。
- ソフトウェアバージョンが **3.1.2** 以降のアプライアンス上で **16 Gb** ファイバーチャネルカードを構成する場合、**2** つの **16 Gb** ファイバーチャネルカードを直接接続しないでください。**2** つの **16 Gb** ファイバーチャネルカード間の直接接続により、**HBA** リンクがターゲットポートでダウンします。この問題を回避するには、**2** つの **16 Gb** ファイバーチャネル **HBA** カード間にスイッチを経由して常に **HBA** リンクを構築してください。
- ソフトウェアバージョン **3.1.2** にアップデートされたアプライアンスで **8 Gb FC** カードを **16 Gb FC** カードに置き換えた後、**NetBackup Appliance** シェルメニューでコマンド `Manage > FibreChannel > Show` を実行すると「ファイバートランスポート重複排除の状態」が正しく表示されないことがあります。インフラサービスを再開して「ファイバートランスポート重複排除の状態」を更新するには、次のコマンドを実行します。

```
Support > InfraServices Stop
Support > InfraServices Start
Manage > FibreChannel > Show
```

- リリース 3.1.1 以降では、アップグレードするアプライアンスで IPsec 機能を設定している場合、アップグレードの完了後に IPsec 証明書が保持されない可能性があります。この問題を回避するには、アプライアンスをアップグレードする前に IPsec 証明書をエクスポートする必要があります。詳しくは、『Veritas NetBackup Appliance アップグレードガイド』でトピック「アプライアンスのアップグレード前のタスク」を参照してください。

NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意

次のリストに、NetBackup Appliance Web コンソールと NetBackup Appliance シェルメニューに関する注意事項および既知の問題を示します。

- NetBackup Appliance Web コンソールのホームページにハードウェアエラーが表示されている場合、[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページにエラーが表示されていない場合、NetBackup Appliance シェルメニューで現在の状態を確認してください。[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページにシェルメニューで利用できる情報の一部が含まれない場合があります。
- アプライアンスに NetBackup クライアントのアドオンパッケージをインストールすると、NetBackup Appliance Web コンソールには不正な [アップグレード後のバージョン (Version after upgrade)] が表示されます。クライアントパッケージのインストールはアプライアンスのソフトウェアバージョンに影響しません。ただし、Web コンソールは NetBackup バージョンをアップグレード後のバージョンで表示します。
- NetBackup Appliance Web コンソールの [監視 (Monitor)] > [SCSP イベント (SCSP Events)] ページにはユーザーセッションは正しく記録されません。ユーザーセッションのログインはページに記録されますが、ログアウトの情報は記録されません。
- 次のシナリオにあるように、Active Directory (AD) ユーザー名の機能に一貫がありません。
 - NetBackup Appliance Web コンソール および NetBackup Appliance シェルメニュー
これらのインターフェースは、Active Directory (AD) のユーザー名の太文字と小文字を区別しません。
 - NetBackup Java コンソール
このインターフェースは、Active Directory (AD) のユーザー名の太文字と小文字を区別します。すべて小文字でユーザー名を入力した場合、NetBackup 管理者のコンソールへのアクセスが許可されます。すべて太文字でユーザー名を入力した場合、NetBackup のバックアップ、アーカイブ、復元インターフェースへのアクセスが許可されます。

- **NetBackup Appliance** シェルメニューのコマンド `Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > Certificate set path name` では、ハイフンが含まれるパス名は使用できません。ハイフンが含まれるパス名は、**NetBackup Appliance Web** コンソールで受け入れられます。
- アプライアンスがプロビジョニングされていない場合は、**NetBackup Appliance Web** コンソールランディングページに次の通知が表示されます。
コールホームサービスが機能していません。コールホームサーバーでシステムがプロビジョニングされたかどうかを確認するには、ベリタステクニカルサポートにご連絡ください。(Call Home service is not functional. Please contact Veritas Technical Support to verify if the system has been provisioned on Call Home server.)
ただし、この通知は表示されない場合もあります。アプライアンスの日付と時刻がネットワークタイムプロトコル (NTP) ごとに設定されていない場合は、ランディングページには日付と時刻を更新するための通知のみが表示されます。NTP ごとに日付と時刻を設定すると、コールホーム通知が表示されます。
- **Veritas Remote Manager** からアラートの構成はサポートされません。アラートの構成は、**NetBackup Appliance Web** コンソールの[設定 (Settings)]>[通知 (Notifications)]>[アラートの構成 (Alert configuration)]メニュー、または **NetBackup Appliance** シェルメニューの `Settings > Alerts` コマンドビューからサポートされます。詳しくは、[設定 (Settings)]>[通知 (Notifications)]>[アラートの構成 (Alert configuration)] セクションを『**NetBackup Appliance 管理者ガイド**』で参照するか、`Main > Settings > Alerts` ビューコマンドのセクションを『**NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド**』で参照してください。

インストールと構成の注意

次のリストに、アプライアンスのインストールと構成に関する注意事項と既知の問題を示します。

- **NetBackup 5330 Appliance** にプライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフが含まれ、拡張シェルフに RAID ボリュームが設定されている場合は、アプライアンスのセットアップから拡張ストレージシェルフを削除しないでください。拡張シェルフを削除すると、プライマリシェルフは拡張シェルフが電源オフになったかのように動作し、エラーが発生します。拡張シェルフを削除する必要がある場合は、セットアップから拡張シェルフを削除する前に `Support > RAID Clear` コマンドを実行する必要があります。

警告: `Support > RAID Clear` コマンドにより、両方のストレージシェルフからすべてのデータが削除されます。このコマンドを実行する前に、必ず他の場所にデータを保存してください。

- 共有ディレクトリにソフトウェアの更新をコピーする場合は、コピーが完了するまでは他のコマンドを開始しないでください。コピー処理中にコマンドを実行すると、ソフトウェアの更新がリストに登録され利用可能になったことが表示される場合があります。ただし、そのソフトウェアの更新をインストールすると失敗する場合があります。
- メディアサーバーの初回構成時に「ライセンスがありません」というメッセージを受信した場合は、この電子メールを無視しても安全です。この電子メールはホスト名の構成時に送信されます。新しいホスト名への変更時にライセンスキーファイルの名前が変更され、警告機構で一時的にライセンスを特定できなくなります。構成が完了すると、ライセンスは正しく設定されます。ライセンスキーは、**NetBackup Appliance Web** コンソールの[管理 (Manage)]>[ライセンス (License)] ページまたは **NetBackup Appliance** シェルメニューの Main > Manage > License > List コマンドで確認できます。
- iSCSI は IPv4 アドレスのみをサポートします。IPv6 を介した iSCSI 接続はサポートされません。さらに、イニシエータとターゲットは同じレイヤ 2 (L2) ネットワーク上にある必要があります。
- 10 Gb イーサネット/iSCSI カードでは、QLogic SFP+ (Small Form-Factor Pluggable) モジュールのみがサポートされます。この要件は **NetBackup 5240 Appliance** の構成 H に適用されます。**NetBackup 5340 Appliance** の構成 A、B、C、D、および E でも、iSCSI をサポートします。
- VLAN は、ネットワークインターフェースまたは iSCSI インターフェースのいずれかで構成できます。VLAN をネットワークと iSCSI インターフェースの両方で構成すると、ネットワークインターフェースの VLAN が両方のインターフェースで有効になります。VLAN が異なるサブネットでネットワークと iSCSI インターフェースの両方で構成されている場合、その構成はサポートされないことに注意してください。

ネットワークインターフェース		iSCSI インターフェース		説明
IP	VLAN	IP	VLAN	
サブネット X	なし	サブネット X	なし	サポート対象
サブネット X	なし	サブネット Y	VLAN A	サポート対象
サブネット X	VLAN B	サブネット X	VLAN B	サポート対象
サブネット X	VLAN B	サブネット Y	VLAN B	サポートされない

- 2 つの iSCSI インターフェースで iSNS を使用してターゲットが検出された場合、Target Show All コマンドで表示されるのは最新レコードのみです。たとえば、Target Discover iSNS コマンドを *iscsi1* で実行した後に *iscsi2* で実行した場合、一部のターゲットでは、Target Show All コマンドの出力の[インターフェース (Interfaces)] 列に両方のインターフェース (*iscsi1*、*iscsi2*) が表示されない場合があ

ります。一部のターゲットに対しては、直近のコマンドからのインターフェースのみが表示されます (この場合は *iscsi2*)。

- iSCSI インターフェース上でワークロードが稼働中の場合は、`iSCSI> Target Disconnect` コマンドの完了までの時間が長くなります。

NetBackup Appliance シェルメニューには次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
Message from syslogd@host at Sep 12 10:09:14 ...
iscsid:
Message from syslogd@host at Sep 12 10:13:27 ...
iscsid:
Message from syslogd@host at Sep 12 10:17:53 ...
iscsid:
```

これらのメッセージは、NetBackup Appliance シェルメニューに異なるタイミングで表示される場合があります。これらは、iSCSI コマンドを実行しているとき、コマンド出力の途中、またはコンソールがアイドル状態のときにも表示されます。これらのメッセージは無害で無視できます。

- ターゲットデバイスで CHAP 認証を有効にして、iSNS を使用してターゲットを検出するとき、`iSCSI > Target Discover` コマンドを使用してもターゲットのクレデンシャルの入力が求められない場合もあります。

NetBackup サポートユーティリティについて

NetBackup appliance には、NetBackup の問題の診断に役立つ次のサポートユーティリティが用意されています。

- 「[NBDNA \(NetBackup Domain Network Analyzer\)](#)」
- 「[NetBackup サポートユーティリティ \(NBSU\)](#)」

NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)

NetBackup appliance で NBDNA ユーティリティを実行すると、次のタスクを実行できます。

- ネットワーク関連の問題を解決するために NetBackup ドメイン構成を識別する
- NetBackup パフォーマンスの問題を特定する
- ホスト名のロックアップ動作が機能するかどうかを確認する
- NetBackup ドメイン内での役割に基づき、NetBackup ホストとアプライアンス間の接続が確立され、機能するかどうかを確認する
- Veritas テクニカルサポートに提出するレポートを生成する

NBDNA ユーティリティで次の種類の情報を出力します。

```
Running audit as Media Server.
```

```
Collection Version: x.x
  Collection Time: Tuesday, October 7, 2010 at 19:17:11 PM
    NBU Release: NetBackup-RedHat2.6.18 7.7.1
    NBU Version: 7.7.1
  NBU Major Version: 7
  NBU Minor Version: 7
  NBU Release Update: 1
    NBU Patch Type: Release Update
  NBU GlobDB Host: "host name"
    Is GlobDB HOST? No
      UNAME:
        Hostname: sample.name.veritas.com
      Host's Platform: Linux
    Perl Architecture: Linux
```

```
Initialization completed in 14.040101 seconds.
```

```
Brief Description of What It Does (for type 1):
```

- ```

```
- 1) Perform basic self checks.
  - 2) Check connectivity to Master (and EMM) server.
  - 3) If SSO configured, get list of media servers sharing devices.
  - 4) Get list of all clients which could send data here for backup.
  - 5) Test NBU ports for basic connectivity between media servers sharing devices.
  - 6) Test NBU ports for basic connectivity between media server and clients it backs up.
  - 7) Perform service level tests for phase 2
  - 8) Capture data for reports; save reports.
  - 9) Save data to report files.
- ```
-----
```

```
Discovering and mapping the NetBackup domain network for analysis by extracting data from current system's configuration.
```

```
(To see more details, consider using '-verbose' switch.)
```

```
Probing Completed in 2.867581 seconds.
```

```
Initiating tests...
```

```
COMPLETED. Thank you for your patience.
```

```
/log/dna/sample.name.veritas.com.NBDNA.20100907.191711.zip
```

```
Archive created successfully!
```

```
Return /log/dna/sample.name.veritas.com.NBDNA.20100907.191711.zip  
to Veritas Support upon request.
```

NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)

NBSU ユーティリティを使用すると、NetBackup とオペレーティングシステムに関する適切な診断情報を収集できます。

NetBackup サポートユーティリティ (NBSU) は Veritas 社のユーティリティで、ユーティリティを実行するシステムの診断情報を収集するために使用します。デフォルトでは、NBSU はオペレーティングシステムと NetBackup 環境に基づいて適切な診断情報を収集します。

Support > NBSU コマンドを使って NBSU ユーティリティが使用する NetBackup 構成サポートファイルを作成または削除できます。

詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

その他の利用可能なサポートについて

NetBackup Appliance の追加のサポートが必要になった場合は、ベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.veritas.com/support/

NetBackup Appliance 固有の情報については、[NetBackup Appliance サポートページ](#)を参照してください。

NetBackup appliance のログファイルについて

ログファイルは、アプライアンスで発生する可能性がある問題の特定と解決に役立ちます。

NetBackup appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連のデータを取得できます。ログファイルは、アプライアンス操作などの情報、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題、温度またはバッテリーに関する問題、およびその他の詳細を取得します。

表 5-1 に、アプライアンスのログファイルにアクセスするために使用できる方法を説明します。

表 5-1 ログファイルの表示

使用する媒体	アクセス方法	ログの詳細
NetBackup Appliance Web コンソール	NetBackup Appliance Web コンソールの [モニター (Monitor)] > [SDCS 監査ビュー (SCSP Audit View)] 画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	アプライアンスの監査ログ
NetBackup Appliance シェルメニュー	Main > Support > Logs > Browse コマンドを実行すると、LOGROOT/> プロンプトが開きます。ls や cd コマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリを走査できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Appliance の構成ログ ■ Appliance のコマンドログ ■ Appliance のデバッグログ ■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ ■ Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ ■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェースログと NetBackup Web サーバーログ ■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ

使用する媒体	アクセス方法	ログの詳細
<p>NetBackup Appliance シェルメニュー</p>	<p>Main > Support > Logs > VxLogView Module <i>ModuleName</i> コマンドを実行して、Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。</p>	<p>Appliance 統合ログ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ All ■ CallHome ■ Checkpoint ■ Commands ■ Common ■ Config ■ CrossHost ■ Database ■ Hardware ■ HWMonitor ■ Network ■ RAID ■ Seeding ■ SelfTest ■ Storage ■ SWUpdate ■ Trace ■ FTMS ■ FTDedup ■ TaskService ■ AuthService
<p>NetBackup Appliance シェルメニュー</p>	<p>Main > Support > DataCollect コマンドを実行して、ストレージデバイスログを収集できます。</p>	<p>Appliance ストレージデバイスログ</p>
<p>NetBackup Java アプリケーション</p>	<p>NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合、このセクションのスクリプトを使って、サポートに連絡するために必要な情報を集めることができます。</p>	<p>NetBackup Java アプリケーションに関するログ</p>

リリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [現在のリリースの内容について](#)
- [NetBackup Appliance 3.2 の一般的なリリース内容](#)
- [NetBackup Appliance のセキュリティリリース内容](#)

現在のリリースの内容について

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。このセクションには、NetBackup Appliance のこのリリースで解決された既知の問題が示されています。

メモ: この章では、NetBackup Appliance 限定の修正のみを説明します。NetBackup Appliance 3.2 リリースには、NetBackup の 8.2 に含まれるすべての修正も含まれます。NetBackup 8.2 の修正の詳細なリストについては、ベリタスのサポート Web サイトにある『NetBackup 8.2 リリースノート』を参照してください。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup ソフトウェアバージョン 8.2 は NetBackup appliance 3.2 のリリースに付属しています。NetBackup 8.2 の新しい機能、拡張および修正については、ベリタスのサポート Web サイトの文書『NetBackup 8.2 リリースノート』に記載しています。

また、NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、Veritas のサポート Web サイトの『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List』を参照してください。

www.netbackup.com/compatibility

NetBackup Appliance 3.2 の一般的なリリース内容

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。

一部の問題は特定、解決されました。EEB の形で利用可能です。次のリストでは、これらの問題は識別のための Etrack 番号を含みます。このドキュメントが送信された後で、追加の EEB がリリースされている可能性があります。このセクションにある解決した問題について詳しくは、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) を参照してください。SORT にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

次のリストには、解決された既知の問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

NetBackup Appliance のセキュリティリリース内容

次のリストには、解決された既知のセキュリティの問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

バージョン 3.2 の一般的なリリース内容

アプライアンスソフトウェアが、RHEL7.6 カーネルに更新されました。次のセキュリティ脆弱性に対処するパッケージとライブラリの多くが更新されました。

CVE-2017-3735

CVE-2018-0495

CVE-2018-0732

CVE-2018-0737

CVE-2018-0739

CVE-2018-1092

CVE-2018-1094

CVE-2018-1118

CVE-2018-1120

CVE-2018-1130

CVE-2018-1259

CVE-2018-5344

CVE-2018-5391

CVE-2018-5407

CVE-2018-5743
CVE-2018-5803
CVE-2018-5848
CVE-2018-7208
CVE-2018-7456
CVE-2018-7568
CVE-2018-7569
CVE-2018-7642
CVE-2018-7643
CVE-2018-7740
CVE-2018-7757
CVE-2018-8781
CVE-2018-8905
CVE-2018-8945
CVE-2018-10322
CVE-2018-10372
CVE-2018-10373
CVE-2018-10534
CVE-2018-10535
CVE-2018-10689
CVE-2018-10844
CVE-2018-10845
CVE-2018-10846
CVE-2018-10878
CVE-2018-10879
CVE-2018-10881
CVE-2018-10883
CVE-2018-10902
CVE-2018-10940
CVE-2018-12327
CVE-2018-13033

CVE-2018-13405
CVE-2018-14348
CVE-2018-14618
CVE-2018-16838
CVE-2018-16843
CVE-2018-16845
CVE-2018-16871
CVE-2018-16884
CVE-2018-17101
CVE-2018-18311
CVE-2018-18397
CVE-2018-18557
CVE-2018-18559
CVE-2018-18661
CVE-2018-19039
CVE-2018-20699
CVE-2018-1000026
CVE-2019-3778
CVE-2019-3811
CVE-2019-3813
CVE-2019-3862
CVE-2019-3880
CVE-2019-5953
CVE-2019-6133
CVE-2019-6454
CVE-2019-9824
CVE-2019-10160
CVE-2019-11085
CVE-2019-11811
CVE-2019-1000020

関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup アプライアンスのマニュアルについて](#)

NetBackup アプライアンスのマニュアルについて

次に挙げるマニュアルを参照すると、アプライアンスの正常なインストール、設定、使用に役立ちます。さらに、次の表でアプライアンスハードウェアのマニュアルについて説明します。

これらのマニュアルはすべて「[NetBackup Appliance マニュアルページ](#)」に投稿されています。

表 B-1 NetBackup Appliance ソフトウェアのマニュアル

ガイド	説明
NetBackup™ 52xx Appliance 初期構成ガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance Web コンソールまたは NetBackup Appliance シェルメニューでの 52xx 構成プロセスが記載されています。
NetBackup™ 53xx Appliance 初期構成ガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance Web コンソールまたは NetBackup Appliance シェルメニューでの 53xx 構成プロセスが記載されています。
NetBackup Appliance アップグレードガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のアップグレードに必要な手順が記載されています。
NetBackup™ Appliance 管理者ガイド	『NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』には次の種類の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none">■ 配備情報■ アプライアンスの管理■ 監視情報

ガイド	説明
NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド	『NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド』には、NetBackup Appliance シェルメニューから使うことができるコマンド一覧が掲載されています。
アプライアンス管理ガイド	このマニュアルは、ベリタスのアプライアンス管理コンソールを使用して、複数のアプライアンスを一元管理する場合に役立ちます。ベリタスのアプライアンス管理コンソールでは、NetBackup アプライアンスの全社規模の監視と管理が可能です。3.1以降では、複数のアプライアンスでソフトウェアアップグレードを管理したり EEB をインストールできます。
NetBackup Appliance リリースノート	このマニュアルには、このバージョンの NetBackup Appliance に関する情報が記載されています。リリース中の新機能の簡単な説明、リリース更新に適用される操作の注意、既知の問題が含まれます。
NetBackup Appliance トラブルシューティングガイド	このマニュアルでは、NetBackup appliance で発生した問題のトラブルシューティング方法の概要を示し、アプライアンスのトラブルシューティングツールとログファイルについて説明します。 特定の問題に関する特定のトラブルシューティング情報については、Veritas のサポート Web サイトの NetBackup Appliance のページ を参照してください。検索機能を使用して、特定の問題に関連する技術情報を検索することができます。
NetBackup 容量計画とパフォーマンスチューニングガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance およびバックアップ環境を最適化する方法に関する情報が記載されています。これにより、バックアップ要件を分析し、各自のニーズに最適なシステムを設計できます。
NetBackup Appliance セキュリティガイド	このマニュアルには NetBackup Appliance のセキュリティ機能、およびこれらの機能を使ってアプライアンス環境の安全性を確保するための方法が記載されています。
NetBackup Appliance ファイバーチャネルガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のサポート対象ファイバーチャネル (FC) の機能と設定が記載されています。
NetBackup Appliance iSCSI ガイド	このマニュアルでは、NetBackup アプライアンスで iSCSI がどのように機能するかについて説明します。
NetBackup Appliance Decommissioning and Reconfiguration Guide	このマニュアルには、NetBackup Appliance の廃止と再構成の方法が記載されています。

ガイド	説明
NetBackup Appliance SNMP トラップリファレンスガイド	このマニュアルでは、NetBackup Appliance SNMP トラップの詳しいリストを提供します。各トラップの意味と、エラー発生時の推奨措置について説明します。
NetBackup Copilot for Oracle 初期構成ガイド	このマニュアルでは、NetBackup および NetBackup Appliance を使用して Copilot を構成する方法の概要が記載されています。
NetBackup Appliance Third-party Legal Notices	『NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』のマニュアルはこの製品に含まれているサードパーティソフトウェアをリストし、サードパーティソフトウェアの属性を記載しています。 このマニュアルは次の Web サイトから利用可能です。 https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements
NetBackup™ Appliance AutoSupport 2.0 リファレンスガイド	このマニュアルには、AutoSupport 2.0 に関する情報が記載されており、AutoSupport インフラでの各アプライアンスの配備方法や AutoSupport インフラでの各アプライアンスのコールホームデータの分析方法を把握できます。
NetBackup™ 53xx Appliance 高可用性リファレンスガイド	このマニュアルには、高可用性 (HA) ソリューションに関する情報が記載されています。高可用性構成の配備を理解することに役立ちます。

表 B-2 NetBackup Appliance ハードウェアのマニュアル

ガイド	説明
NetBackup™ 5230 Appliance とストレージセルフ製品の説明	このマニュアルには、NetBackup 5230 Appliance とストレージセルフの概要が記載されています。
NetBackup™ 5240 Appliance の製品説明	このマニュアルには、NetBackup 5240 Appliance とストレージセルフの概要が記載されています。
NetBackup™ 5330 Appliance の製品説明	このマニュアルには、NetBackup 5330 Appliance とストレージセルフの概要が記載されています。
NetBackup™ 5340 Appliance の製品説明	このマニュアルには、NetBackup 5340 Appliance と 5U84 ストレージセルフの概要が記載されています。

ガイド	説明
<p>NetBackup™ Appliance 安全とメンテナンスガイド</p>	<p>このマニュアルには、以下のハードウェアに関する安全情報とメンテナンス情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup 52xx Appliance ■ NetBackup 53xx Appliance ■ Veritas 3U16 24 TB/36 TB ストレージシェルフ ■ Veritas 2U12 49 TB ストレージシェルフ ■ Veritas 5U84 ストレージシェルフ